

フィギュアスケート

スペシャルオリンピックス(SO)のフィギュアスケート公式スポーツルールは、全てのスペシャルオリンピックスフィギュアスケート競技において適用される。国際的なスポーツ組織として、スペシャルオリンピックスは国際スケート連盟（ISU）のルール（参照：<http://www.isu.org>）を基に、スペシャルオリンピックス公式スポーツルールを定めた。スペシャルオリンピックスのフィギュアスケート公式スポーツルールおよびスポーツルール第 章 総則と矛盾する場合以外は ISU あるいは国内スケート連盟（NGB）のルールが採用される。矛盾する場合は、スペシャルオリンピックスのフィギュアスケート公式スポーツルールが適用される。

参考:スペシャルオリンピックス スポーツルール第 章 総則

http://www.son.or.jp/pdf/athlete/program/rule/general_rules.pdf

行動規範、トレーニング基準、医療および安全面の必要条件、ディビジョニング、表彰、上位レベルの競技会への進出条件とユニファイドスポーツを参照してください。

セクション A - 公式種目

以下はスペシャルオリンピックスにおける公式種目の一覧である。

これらの種目は、あらゆる能力のアスリートに競技する機会を提供することを目的としている。各国プログラムは提供する種目、および必要に応じて、それら種目の運営方針を決定することができる。コーチは、それぞれのアスリートの技術と興味に応じて、適切なトレーニングの提供と種目を選択することに責任がある。

スペシャルオリンピックスでは、シングルス、ペアスケーティング、アイスダンスの 3 種目を公式種目とする。

1. 技能競技（世界大会の種目ではなく、ローカルの競技会とプログラムレベル競技会用）
2. シングルス（シングルスレベル 1 - 6）
3. ペアスケーティング（ペアレベル 1 - 2）
4. アイスダンス（アイスダンスレベル 1 - 4）
5. ユニファイドスポーツ®ペアスケーティング
 - a. 男性ユニファイドスポーツ®パートナーとアスリート
 - b. 女性ユニファイドスポーツ®パートナーとアスリート
6. ユニファイドスポーツ®アイスダンス

セクション B - 競技設備

1. 最小でも 26m×56m（85ft×185ft）の長方形リンクが必要である。
2. アスリートのために暖をとる設備と更衣設備が用意されなければならない。

セクション C - 用具

1. 伴奏音楽のための音響設備がなくてはならない。
 2. 競技用衣装とスケート靴
 - a. スペシャルオリンピックスの競技会で使用されるフィギュアスケートのブレードは両エッジ間の幅が一定で、断面形状が平面ないし凸面状をなすように研磨されたものでなければならない。しかしながらブレードの断面形状をわずかに先細にしたり、テーパをつけてたり、幅を狭めたりすることは認められている。
 - b. スペシャルオリンピックスのシングルスとペアの競技会において、競技者の衣装は節度と品位のあるものでスポーツの競技会に適したものでなければならない。
 - けばけばしいものや芝居じみたデザインでないこと。ただし、衣装は選んだ音楽の特徴を反映するものであってよい。
 - c. スペシャルオリンピックスのアイスダンスおよび、ユニファイドアイスダンスの競技会では競技者の衣装は節度と品位のあるものでスポーツ競技会に適したものでなければならない。
 - けばけばしいものや芝居じみたデザインでないこと。ただし、衣装は選んだ音楽の特徴を反映するものであってよい。
- 1) 衣装はスポーツ競技用として過度に肌を出したように見えるものであってはならない。
 - 2) 男性はズボンを着用しなければならず、タイツは許可されていない。
 - 3) アクセサリーや小道具を用いたりすることは許可されていない。
 - 4) 上記の要件にふさわしくない衣装の着用に対しては、1.0 が必ず減点される。
- 1) 女性はスカートもしくはドレスを着用しなければならない。女性のドレスはスポーツ競技用として過度に肌を出したように見えるものであってはならない。
 - 2) 男性は長ズボンを着用しなければならない。タイツは許可されておらず、男性の衣装は袖なしでないものが良い。
 - 3) アクセサリーや小道具を用いたりすることは許可されていない。
 - 4) コスチュームの飾りつけは、取り外せないものでなければならない。

セクション D - 役員

1. 競技役員
 - a. 審判
 - b. 審判補佐
 - c. 主任得点記録係

2. ジャッジ

- a. 最低3人、最高9人のジャッジ、得点記録係、および記録係助手が必要である。
いかなる場合でもジャッジの人数は奇数でなければならない。

セクション E - 競技ルール

1. シングルス競技

a. レベル

- 1) 参加資格：レベル I 競技に参加するスケーターはバッジ 1~5 が出来なければならない。ただしそれ以上のバッジは出来ないこととする。

2) レベル I コンパルソリーエレメントグループ

スケーターは次のエレメントを個別に滑らなければならない。ひとり前のスケーターが全てのエレメントを滑り終えた後、次のスケーターが演技を開始する。スケーターはエレメントを2回演技する機会が与えられる。

- a) 10m のフォアのスイズル
- b) 10m のバックのスイズル
- c) フォアのイの字ストップ（左足または右足）

3) レベル フリースタイルプログラム

- a) スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。
- b) スケーターが滑り始めた時点でジャッジと計時が開始される。
- c) これは、初心者のためのフリースタイルのプログラムであり、バランス、滑走動作の開始の出来映えに重点を置き、バッジ 1~5 から選択されたエレメントを含むバランスの良いプログラムである。なお、エレメントの選択は以下のものに限られる。

- 前へ歩く、またはストローク
- バックのウィグルあるいはバック歩行
- フォアのスイズル
- バックのスイズル
- フォアの両足滑走
- バックの両足滑走
- 膝を曲げてフォア滑走
- 片足で身長以上の距離のフォア滑走をする（左右）
- その場もしくは動きながら両足ジャンプ
- フォアのイの字ストップ（左足あるいは右足）
- 両足フォア滑走で左右にカーブしながら滑る
- その場でフォアからバックへの両足ターン

- d) エLEMENTの技はどの順序で演じても良い。
- e) スケーターは決められた数の技を行う必要はないが、得点は演技の質と内容に基づいて判定される。
- f) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない（ボーカルは不可）。ボーカルの使用に対しては0.2点が必ず減点される。
- g) プログラムは60±10秒の制限時間を越えてはならない。
- h) バッジ6以上のELEMENTをプログラムに含んではならない。違反した場合は、追加した各々のELEMENTに対し0.2点が必ず減点される。

b. レベル

1) 参加資格：レベル 競技に参加するスケーターはバッジ1～10が出来なければならない。ただしそれ以上のバッジは出来ないこととする。

2) レベル コンパルソリーELEMENTグループ

スケーターは最初の8つ（以下のa～h）のELEMENTを連続して滑らなければならない。スケーターはELEMENTを2回演技する機会が与えられる。最初の8つのELEMENTを滑り終えた後、スケーターは9つ目（i）のELEMENTを演技する。

- a) スケーターはリンクのいずれかの端（または赤色のゴールライン上）から演技を開始する。
- b) スケーターは審判から指示があった時に演技を開始する。
- c) スケーターは最初の青色ラインまで、あるいはリンクの長さの約1/3の地点までフォアストロークで滑走する。（スウィズルは禁止。スウィズルに対しては0.2点が必ず減点される。）
- d) スケーターは、最初の青色ライン（あるいは、リンクの長さの約1/3地点）で、フォアからバックへ両足ターンを行う。
- e) ターンのあと、2番目の青色ライン（あるいはリンクの長さの2/3地点）までバックストロークで滑走する。（スウィズルは禁止。スウィズルに対しては0.2点が必ず減点される。）
- f) 2番目の青色ライン（あるいは、リンクの長さの約2/3地点）で、スケーターはバックからフォアへ両足ターンを行う。
- g) ターンのあと、スケーターはフィニッシュライン（リンクの端の赤色のゴールライン）までフォアストロークで滑走する。
- h) スケーターはフィニッシュライン（赤色ライン）でT字ストップを行う。
- i) レベル コンパルソリーELEMENTグループ：ホッケーサークルの周りをフォアクロスでフィギュアエイトのパターンで滑走する。右回りおよび左回り（間は止まらずに）で、1つのサークルにつき最低5回のクロス

を行う。

3) レベル フリースタイルプログラム

- a) スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。
- b) スケーターが滑り始めた時点でジャッジと計時が開始される。
- c) これは、上級初心者のためのフリースタイルのプログラムであり、滑走とターンに重点を置き、バッジ 1~10 から選択されたエレメントを含むバランスの良いプログラムである。なお、エレメントの選択はレベル で列挙されているエレメントおよび以下のものに限られる。

- サークル上で連続したフォアの片足スウィズル（左右とも）
- サークル上で連続したバックの片足スウィズル（左右とも）
- 片足で身長以上の距離をバック滑走する（左右とも）
- バニーホップ
- 左右どちらかでT字ストップ
- ホッケーストップ
- バックストローク
- フォア滑走から両足ターンをしてバック滑走する
- バック滑走から両足ターンをしてフォア滑走する
- フォアのピボットターン
- 両足スピン
- サークル上でフォアの両足ターン（左右とも）
- フォアアウトスリーターン（左右とも）
- フォアインスリーターン（左右とも）
- フォアスパイラル
- 連続フォアクロス（左右とも）
- 連続バッククロス（左右とも）
- アウトエッジでフォア滑走
- インエッジでフォア滑走
- フォアランジまたはシュートザダック（任意の深さで）

- d) エレメントの技はどの順序で演じても良い。
- e) スケーターは決められた数の技を行う必要はないが、得点は演技の質と内容に基づいて判定される。
- f) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない（ボーカルは不可）。ボーカルの使用に対しては0.2点が必ず減点される。
- g) プログラムは1分30秒±10秒の制限時間を越えてはならない。
- h) バッジ11以上のエレメントをプログラムに含んではならない。違反した

場合は、追加した各々のエレメントに対し 0.2 点が必ず減点される。

c. レベル

1) 参加資格：レベル 競技に参加するスケーターはバッジ 1～12 が出来なければならない。ただしそれ以上のバッジは出来ないこととする。

2) レベル コンパルソリーエレメントグループ

スケーターは次のエレメントを個別に滑らなければならない。スケーターはエレメントを 2 回演技する機会が与えられる。その際、ジャッジから最も高い総合点を得た演技がそのスケーターの最終得点として採用され、もう片方の採用されなかった得点は考慮されないものとする。

a) スケーターは審判が指示した地点からエレメントの演技を開始する。

b) スケーターは審判から指示があった時に演技を開始する。

c) スケーターは次の演技を行わなければならない。

i. アウトエッジ、インエッジを使って前進する。左右の足を正しく交互に入れ替えながら短いストロークで滑る。リンクの横幅を右足からスタートして左足に替え、連続して 4 エッジ分（アウトエッジ、およびインエッジ）滑る。

ii. スケーターは右足フォアアウトスリーターンと左足フォアアウトスリーターンを行わなければならない。この技は 2 回行わなければならない。スケーターはひと蹴りでアプローチし、各スリーターンを実施し終えること。スリーターンを行う時のスケートは、各スリーターンの前、スリーターン中、またスリーターン後に 1 m しか滑ってはいけない。

iii. スケーターは右のフォアインエッジから左のバックインエッジのオープンモホークと左のフォアインエッジから右のバックインエッジのオープンモホークを行う。フリーレッグはターンの前後で伸ばしていなければならない。

3) レベル フリースタイルプログラム

a) スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。

b) スケーターが滑り始めた時点でジャッジと計時が開始される。

c) これは、中級者のためのフリースタイルのプログラムであり、フローとキヤリンク（身のこなし）また、やや上級スキルレベルにも重点を置き、バッジ 1～12 から選択されたエレメントを含むバランスの良いプログラムである。なお、エレメントの選択はレベル とレベル で列挙されているエレメントおよび以下のものに限られる。

● スリージャンプ

- バックスパイラル
- 片足スピン（最低3回転）
- フォアアウトセミサークル
- フォアインセミサークル
- バックアウトセミサークル
- バックインセミサークル
- フォアインサイドモホーク
- シンプルフットワーク（モホークステップシークエンス、ワルツスリーステップシークエンス等）
- フィールドムーヴズ（スパイラル、レンジ等）
- サルコウジャンプ
- トウループジャンプ

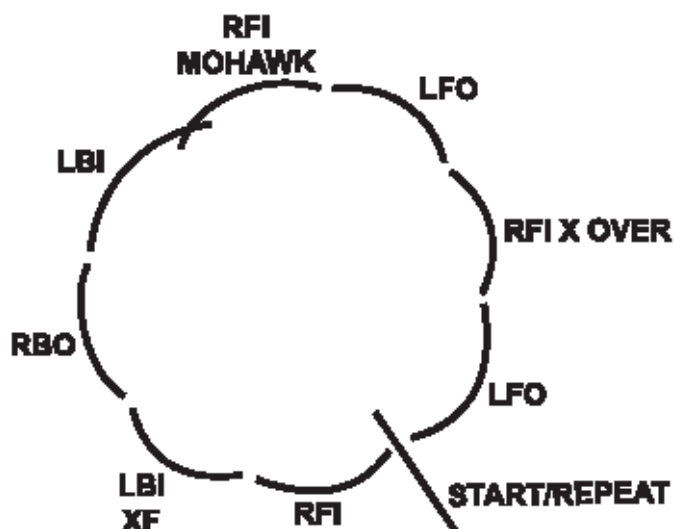
- d) エレメントの技はどの順序で演じても良い。
- e) スケーターは決められた数の技を行う必要はないが、得点は演技の質と内容に基づいて判定される。
- f) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない（ボーカルは不可）。ボーカルの使用に対しては0.2点が必ず減点される。
- g) プログラムは2分±10秒の制限時間を越えてはならない。
- h) 片足スピン以上のいかなるスピン、また上記以外のいかなるジャンプをも行った場合は、追加した各々のエレメントに対し0.2点が必ず減点される。

d. レベル

1) レベル コンパルソリーエレメントグループ

- a) アウトエッジ、インエッジを使ってバック滑走する。左右の足を正しく交互に入れ替えながら短いストロークで滑る。リンクの横幅を右足からスタートして左足に替え、連続して4エッジ分（アウトエッジ、およびインエッジ）滑る。
- b) 次のエレメントはサークル上で連続して演技されなければならない。
- ・ レフト・フォア・アウト（LFO）
 - ・ ライト・フォア・イン クロス（RFI×OVER）
 - ・ レフト・フォア・アウト
 - ・ ライト・フォア・イン モホーク（RFI MOHAWK）
 - ・ レフト・バック・イン（LBI）
 - ・ ライト・バック・アウト（RBO）
 - ・ レフト・バック・イン クロス（LBI×F）
 - ・ ライト・フォア・イン（RFI）

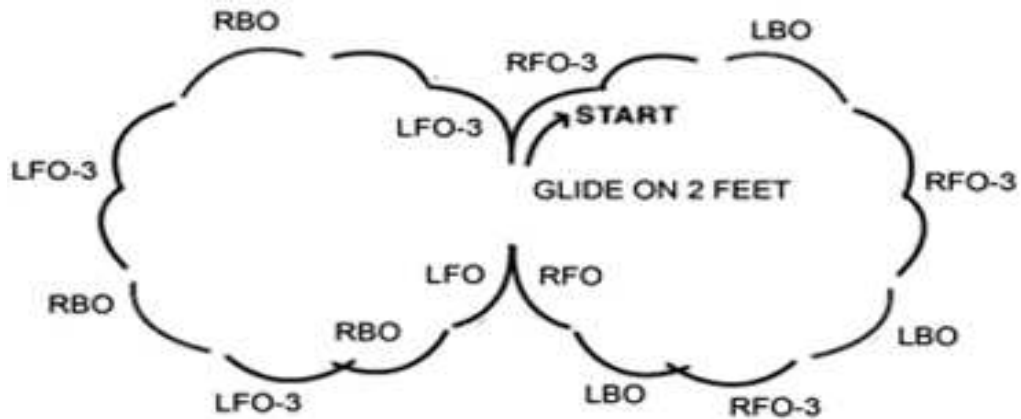
ステップシーケンスは2回繰り返し、左足スタートの左回り(下図)と右足スタートの右回りの両方の演技をしなければならない。



c) ワルツスリーステップシーケンス：フィギュアエイトのコンパルソリーで2歩の助走を付け加えてもよい。

- ライト・フォア・アウト スリーターン (RFO-3)
- レフト・バック・アウト (LBO)
- ライト・フォア・アウト スリーターン
- レフト・バック・アウト
- ライト・フォア・アウト スリーターン
- レフト・バック・アウト
- ライト・フォア・アウト
- 両足滑走でスタート位置に戻る
- レフト・フォア・アウト スリーターン (LFO-3)
- ライト・バック・アウト
- レフト・フォア・アウト スリーターン
- ライト・バック・アウト
- レフト・フォア・アウト スリーターン
- ライト・バック・アウト
- レフト・フォア・アウト
- 両足滑走でスタート位置に戻る

最低 3 回、1 つのサークルにつきスリーターン / バックエッジのシーケンスを行う。



1) レベル フリースタイルプログラム

- a) スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。
- b) スケーターが滑り始めた時点でジャッジと計時が開始される。
- c) これは、さらに上級者のためのフリースタイルのプログラムであり、スピンとジャンプとフットワークに重点を置き、フリースケーティング（自由演技）のエLEMENTを含むバランスの良いプログラムである。なお、ELEMENTの選択はレベル、レベル、レベルで列挙されているELEMENTおよび以下のものに限られる。
 - サルコウジャンプ
 - トウループジャンプ
 - ループジャンプ
 - 半回転ジャンプ
 - 両足スピンから外側の足を上げる（バックスピンから始める）
 - コンビネーション スリージャンプ / トウループジャンプ
 - コンビネーション サルコウジャンプ / トウループジャンプ
- d) いかなるELEMENT（上記に列挙されている1回転ジャンプや足換えスピン以外）についても、追加した各々のELEMENTに対し0.2点が必ず減点される。（例：1回転ジャンプや上記以外の足でのスピン）
- e) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない（ボーカルは不可）。ボーカルの使用に対しては0.2点が必ず減点され

る。

f) プログラムは 2 分±10 秒の制限時間を越えてはならない。

e. レベル

1) レベル コンパルソリーエレメントグループ

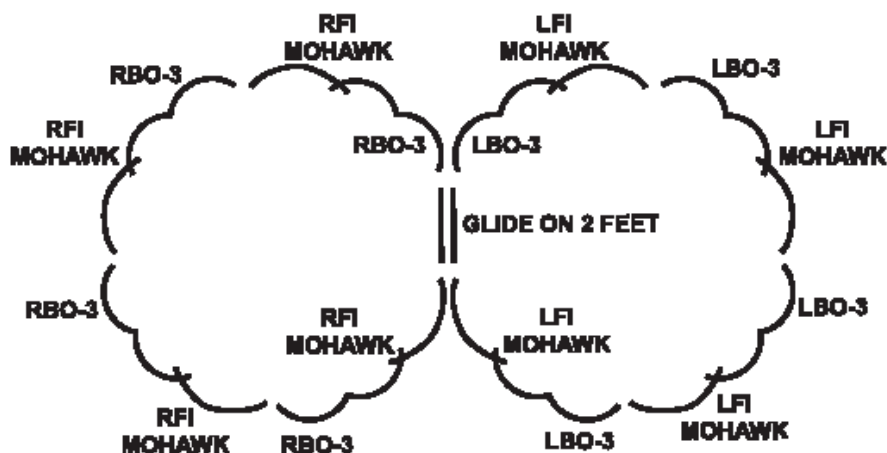
エレメント a) と b) は 8 の字状に演技する。

a) 両足滑走からレフト・バック・アウト スリーターン

レフト・フォア・インモホークを繰り返し、8 の字の最初の半分を滑り終える。

b) 両足滑走からライト・バック・アウト スリーターン

ライト・フォア・インモホークを繰り返し、8 の字の残り半分の滑り終える。



エレメント c) と d) が連続してリンクの長さに沿って行われる。また、エレメント開始時の助走ステップは最高 4 回行うことができる。

c) ライト・フォア・アウトからインへエッジチェンジ (RFOI-CE)

レフト・フォア・インスリーターン (図# 3 参照)

d) ライト・フォア・インからアウトへエッジチェンジ (RFIO-CE)

レフト・フォア・アウトスリーターン (図# 4 参照)

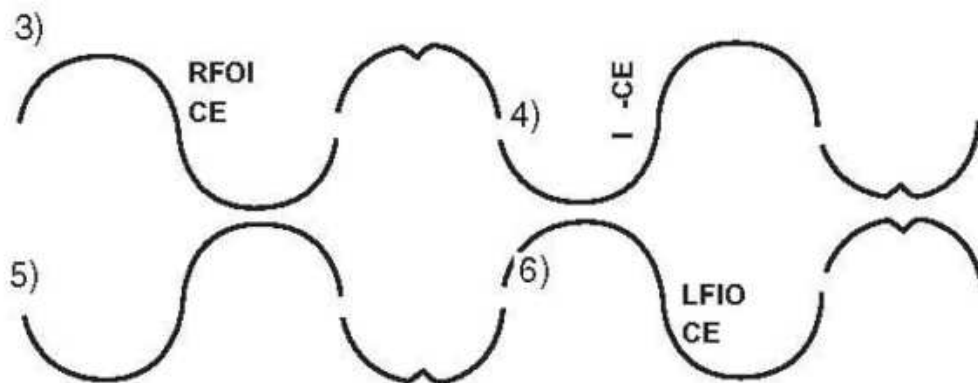
エレメント e) と f) が連続してリンクの長さに沿って行われる。また、エレメント開始時の助走ステップは最高 4 回行うことができる。

e) レフト・フォア・アウトからインへエッジチェンジ (LFOI-CE)

ライト・フォア・イン スリーターン (図#5 参照)

f) レフト・フォア・インからアウトへエッジチェンジ (LFOI-CE)

ライト・フォア・アウト スリーターン (図#6 参照)



2) レベル フリースタイルルーティン

- a) スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。
- b) スケーターが滑り始めた時点でジャッジと計時が開始される。
- c) これは上級のフリースタイルプログラムである。スピン、コンビネーションスピン、上級ジャンプ、コンビネーションジャンプ、フットワークに重点を置き、フリースケーティング（自由演技）の要素を含むバランスの良いプログラムである。なお、要素の選択はレベル、レベル、レベル、レベルで列挙されている要素および以下のものに限られる。
 - 1回転ジャンプ
 - 1回転コンビネーションジャンプ
 - スピンの足換え
 - スピンの姿勢変更
- d) いかなる要素についても、追加した各々の要素（アクセル、2回転以上のジャンプ、フライングスピンなど）に対し0.2点が必ず減点される。
- e) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない（ボーカルは不可）。ボーカルの使用に対しては0.2点が必ず減点される。
- f) プログラムは2分30秒±10秒の制限時間を越えてはならない。

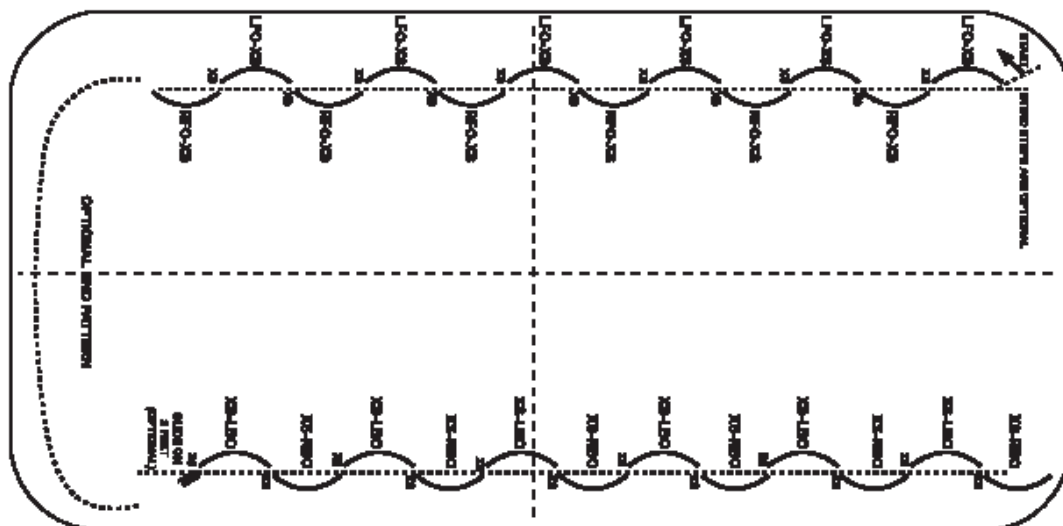
f. レベル

1) レベル コンパルソリー要素グループ

- a) リンクの長い方の端から端までフォア・クロス・ストロークで滑る。そして、リンクの長い方の端から端までバック・クロス・ストロークで滑る。要素開始時の助走ステップは任意とし、フォア・クロス・ストロークとバック・クロス・ストロークの間に任意のエンドパターンを加

えても良い。

フォア・バック・クロス・ストローク



b) ブラケット

- i. ライト・フォア・アウト・ブラケットを行った後、バックで蹴り替え、レフト・バック・イン・ブラケットでストップする。(クロージングサークル)。さらに、レフト・フォア・アウト・ブラケットを行った後、バックで蹴り替え、ライト・バック・イン・ブラケットでストップする。(クロージングアップサークル)
- ii. ライト・フォア・イン・ブラケットを行った後、バックで蹴り替えレフト・バック・アウト・ブラケットでストップする。(クロージングアップサークル)。さらに、レフト・フォア・イン・ブラケットを行った後、バックで蹴り替え、ライト・バック・アウト・ブラケットでストップする。(クロージングアップサークル)

FIGURE 1

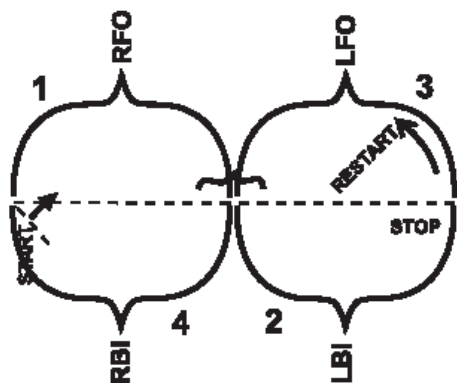
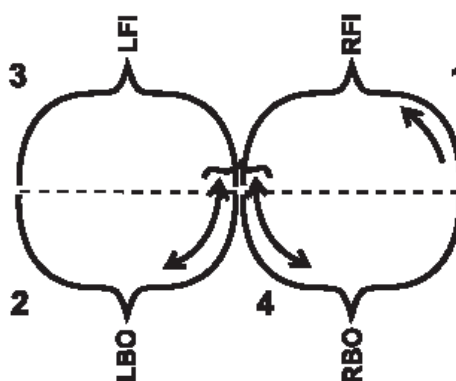


FIGURE 2



2) レベル フリースタイルプログラム :

- a) スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。
- b) スケーターが滑り始めた時点でジャッジと計時が開始される。
- c) これは最も上級のフリースタイルプログラムである。レベル 1、レベル 2、レベル 3、レベル 4 および以下に列挙されているエレメントを含む、バランスの良いプログラムである。

- フライングスピン
- スピンの足換え
- スピンの姿勢変更
- アクセル
- 2 回転ジャンプ
- コンビネーションジャンプ

d) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない (ボーカルは不可)。ボーカルの使用に対しては 0.2 点が必ず減点される。

e) プログラムは 3 分±10 秒の制限時間を越えてはならない。

f) プログラムは、以下のものを必ず含まなければならない。

- ストレートライン (直線)、サーキュラー (円形)、またはサーペントライン (蛇行した) フットワークシーケンス
- 最低 3 回の足換えポジションがあるスパイラルシーケンス

2. ペアスケートティング

a. レベル ペア (これは SO ペアスケーターとユニファイドスポーツ®ペアスケーターに適用される)

1) 参加資格 : この種目に参加するスケーターは少なくともレベル 1 のシングルスケーターである必要があり、またレベル 2 以上のシングルスケーターであってはならない。両スケーターのシングルレベルは同一でなくてもよいが、シングルレベル 1、2 の範囲でなくてはならない。チームはスペシャルオリンピックスのアスリート男性 1 名、女性 1 名または男性 2 名、女性 2 名から構成される。

2) レベル ペアコンパルソリーエレメントグループ

- a) スケーターは審判が指示した地点から演技を開始する。
- b) スケーターは審判から指示があった時に演技を開始する。
- c) スケーターには音楽なしで最長 1 分 30 秒、次のスキルを演技する時間がある。

- d) 必要な技術：リンク端のホッケーゴールクリーズより開始し、カップルは手を取り合ってリンク中央へ前進ストロークする。そして、フォアクロスでフィギュアエイトのコンパルソリーを滑り（1シークエンスの右回り、および左回り）、続けてリンクのもう一方の端へフォア・ストロークし、ゴールクリーズでT字ストップし、並んで両足スピンを行う。
- e) スケーターはチーム（2人）で各コンパルソリーのエレメントを演じなければならない。スケーターはこれらのエレメントを連続した動きとして音楽なしで演じなければならない。
- f) 各チーム2回演技することが出来る。
- g) ジャッジから最も高い合計得点を集めた時の演技が、スケーターの最終スコアに考慮され、その他の演技は考慮されないものとする。

3) レベル ペアフリースタイルプログラム

- a) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない（ボカールは不可）。ボカールの使用に対しては0.2点が必ず減点される。
- b) 各チームは1分±10秒以内のプログラムを演技する。
- c) これは初心者ペアのためのプログラムである。
- d) 両足スピン以外のいかなるスピン、そしてバニーホップ以外のいかなるジャンプについても、追加した各々のエレメントに対し0.2点が必ず減点される。
- e) エレメントの技はどの順序で演じても良い。
- f) このプログラムは次の10のエレメントのうち8つを行わなければならない。
 - 2人手をつないで調和してフォアストローク
 - 2人手をつないで調和してフォアクロス（右回り）
 - 2人手をつないで調和してフォアクロス（左回り）
 - 2人同調して両足スピン
 - サイドバイサイドでフォアピボットしながらスピンする（任意の位置）
 - 任意の位置にて2人でスパイラル
 - 2人手をつないで調和してバニーホップ
 - 直線で連続ステップ
 - 2人手をつないでバックストローク
 - ストレートリフト（男性の肩より上がってはならない）
- g) 高いレベルのエレメントを演技した場合は0.2点が評価より必ず減点となる。

b. レベル ペア

1) 参加資格：この種目に参加するスケーターは少なくともレベル 1 のシングルスケーターでなければいけないが、レベル 2 以上のシングルスケーターであってはならない。両スケーターのシングルレベルは同一でなくてもよいが、シングルレベル 1, 2 の範囲でなくてはならない。チームはスペシャルオリンピックのアスリート男性 1 名、女性 1 名または男性 2 名、女性 2 名から構成される。

2) レベル 1 コンパルソリーエレメントグループ

- a) スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。
- b) スケーターは審判から指示があった時に演技を開始する。
- c) スケーターは最大 1 分 30 秒、音楽なしで次のスキルを演技する時間がある。
- d) 求められるスキル：フィギュアエイトコンパルソリーでバッククロス（1 シークエンスの右回り、および 1 シークエンス左回り）、サイドバイサイドでスリージャンプ、ペアスピン - 好みのポジションで最低 2 回転、ストレートライン（直線）、サーキュラー（円形）またはサーペントライン（蛇行した）ステップシークエンス（コンパルソリーの選択は自由）。
- e) このスキルはどの順序で行ってもよい。しかし追加スキルを加えることはできない。
- f) どの追加エレメントに対しても 0.2 点が必ず減点される。
- g) スケーターはチームとして各コンパルソリーのエレメントを演じる。スケーターは音楽なしでこれらのエレメントを連続して演じる。
- h) 各チーム 2 回演技することが出来る。
- i) ジャッジから最も高い合計得点を集めた時の演技が、スケーターの最終スコアに考慮され、その他の演技は考慮されないものとする。

3) レベル 2 ペアフリースタイルプログラム

- a) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない（ボーカルは不可）。ボーカルの使用に対しては 0.2 点が必ず減点される。
- b) 各チームは 2 分±10 秒以内のプログラムを演技する。
- c) これはより上級のペアプログラムである。
- d) エレメントの技はどの順序で演じていても良い。
- e) このプログラムは次の 10 のエレメントのうち 8 つを行わなければならない。
 - 任意の位置でバッククロス（右回り）
 - 任意の位置でバッククロス（左回り）
 - ランジでホールディングポジションへ（任意の位置）
 - ホールドした形でスパイラル（任意の位置）

- バニーホップリフト
- リフトについては男性 1 1/2 回転、女性は 2 回転までとする。
 - 男性の両腕を完全に伸ばしきってはならない。
- 連続ステップ（形は任意-最低 8 ステップ）ストレートライン、サーキュラー、サーペントライン
- 2 人並んで同調してジャンプ（ジャンプは任意）
- 2 人同調して片足スピン、3 つのローテーション
- 任意の位置で片足スピン、3 つのローテーション

f) 次のエレメントはこのプログラムにおいて禁ずる。

- 男性の両腕を完全に伸ばし切るオーバーヘッドリフトを禁ずる。
- デススパイラルを禁ずる。
- スローを禁ずる。

g) 高いレベルのエレメントを演技した場合は 0.2 点が評価より必ず減点される。

3 . アイスダンス

a. レベル

1) 参加資格 : レベル ダンス参加のスケーターは、バッジ 10、またはレベル に合格していなければならないが、レベル のシングルススケーターよりレベルが上であってはならない。全アイスダンス種目は、単独で演技するか、男性 1 人と女性 1 人、男性 2 人、または女性 2 人のスペシャルオリンピックスアスリートで構成されるチームで演技する。

2) レベル パターンダンス

- レベル のパターンダンスは全て音楽に合わせて演技する。
- ダンス演技は審判に指定されたリンクの端で開始する。
- イントロには最大 7 ステップまで含めることができる

3) レベル I 決勝 - パターンダンス 2 回目

- スケーターは次のシーズンの「パターンダンス」として必要なダンスを演技しなければならない。

4) ダンスローテーション

- スケーターはダッチワルツ、キャナスタタンゴ、もしくはリズムブルースを以下のローテーションスケジュールに従って演技しなければならない。

パターンダンス	決勝	パターンダンス 2 回目
2010 - リズムブルース	&	ダッチワルツ
2011 - ダッチワルツ	&	キャナスタタンゴ
2012 - キャナスタタンゴ	&	リズムブルース(世界大会 選考会の年)
2013 - キャナスタタンゴ	&	リズムブルース(世界大会)
2014 - リズムブルース	&	ダッチワルツ

- i. ダッチワルツ - 3 / 4 ワルツ - 毎分 138 ビート ; 氷面上を 2 パターンで踊るか、1 回まわる。(図 #1 参照)
- ii. リズムブルース - 4 / 4 ブルース - 毎分 88 ビート ; 氷面上を 2 パターンで踊るか、1 回まわる。(図 #3 参照)
- iii. キャナスタタンゴ - 4 / 4 タンゴ - 毎分 104 ビート ; 氷面上を 2 パターンで踊るか、1 回まわる。(図 #2 参照)

b. レベル

1) 参加資格 : レベル のパターンダンスで競技するスケーターは、少なくともレベル のシングルススケーターでなければならない。全アイスダンス種目は、単独で演技するか、男性 1 人と女性 1 人、男性 2 人、または女性 2 人のスペシャルオリンピックスアスリートで構成されるチームで演技する。

2) レベル パターンダンス

- a) レベル のパターンダンスは全て音楽に合わせて演技する。
- b) ダンス演技は審判に指定されたリンクの端で開始する。
- c) イントロには最大 7 ステップまで含めることができる。

3) レベル 決勝 - パターン 2 回目

a) スケーターは次のシーズンの「パターンダンス」として必要なダンスを演技しなければならない。

4) ダンスローテーション

a) スケーターはスイングダンス、フィエスタタンゴ、チャチャを以下のローテーションでスケジュールに従って演技しなければならない。

パターンダンス	決勝	パターンダンス 2 回目
2010 - フィエスタタンゴ	&	チャチャ
2011 - チャチャ	&	スイングダンス

2012 - スイングダンス & フィエスタタンゴ(世界大会選考会の年)
2013 - スイングダンス & フィエスタタンゴ(世界大会)
2014 - フィエスタタンゴ & チャチャ

- i. スイングダンス - 2/4 スコティッシュ - 毎分 96 ビート ; 氷面上を 2 パターンで踊るか、2 回まわる。(図#4 参照)
- ii. フィエスタタンゴ - 4/4 タンゴ - 毎分 108 ビート ; 氷面上を 2 パターンで踊るか、1 回まわる。(図#6 参照)
- iii. チャチャ - 4/4 チャチャ - 毎分 104 ビート ; 氷面上を 2 パターンで踊るか、1 回まわる。(図#5 参照)

c . レベル

1) 参加資格 : レベル のダンスで競技するスケーターは、少なくともレベル のシングルスケーターでなければならない。全アイスダンス種目は、単独で演技するか、男性 1 人と女性 1 人、男性 2 人、または女性 2 人のスペシャルオリンピックスアスリートで構成されるチームで演技する。

2) レベル パターンダンス

- a) レベル のパターンダンスは全て音楽に合わせて演技する。
- b) ダンス演技は審判に指定されたリンクの端で開始する。
- c) イントロには最大 7 ステップまで含めることができる

3) レベル 決勝 - パターンダンス 2 回目

- a) スケーターは次のシーズンの「パターンダンス」として必要なダンスを演技しなければならない。

4) ダンスローテーション

- a) スケーターはテンフォックス、ウィローワルツ、ヒッコリーホーダウン、を以下のローテーションでスケジュールに従って演技しなければならない。

パターンダンス

決勝 パターンダンス 2 回目

2010 - ウィローワルツ & ヒッコリーホーダウン
2011 - ヒッコリーホーダウン & テンフォックス
2012 - テンフォックス & ウィローワルツ(世界大会選考会の年)
2013 - テンフォックス & ウィローワルツ(世界大会)

SO 冬季スポーツ公式ルール 2011 年 1 月改訂版
フィギュアスケート

2014 - ウィローワルツ & ヒッコリーホーダウン

- i. テンフォックス - 4/4 フォックストロット - 毎分 100 ビート ; 氷面上を 2 パターンで踊るか、1 回まわる。(図 #8 参照)
- ii. ウィローワルツ - 3/4 ワルツ - 毎分 138 ビート ; 氷面上を 2 パターンで踊るか、1 回まわる。(図 #9 参照)
- iii. ヒッコリーホーダウン - 4/4 カントリーウエスタン - (ホーダウン) - 毎分 104 ビート ; 氷面上を 2 パターンで踊るか、1 回まわる (図 #7 参照)

d . レベル

1) レベル パターンダンス

- a) レベル のパターンダンスは全て音楽に合わせて演技する。
- b) ダンス演技は審判に指定されたリンクの端で開始する。
- c) イントロには最大 7 ステップまで含めることができる

2) レベル 決勝 - パターン 2 回目

- a) スケーターは次のシーズンの「パターンダンス」として必要なコンパルソリーダンスを演技しなければならない。

3) ダンスローテーション

- a) スケーターはフォーティーンステップ、ヨーロピアンステップ、ヨーロピアンワルツ、フォックストロットを以下のローテーションでスケジュールに従って演技しなければならない。

パターンダンス 決勝 パターンダンス 2 回目

- 2010 - フォックストロット & フォーティーンステップ
- 2011 - フォーティーンステップ & ヨーロピアンワルツ
- 2012 - ヨーロピアンワルツ & フォックストロット (世界大会選考会の年)
- 2013 - ヨーロピアンワルツ & フォックストロット (世界大会)
- 2014 - フォックストロット & フォーティーンステップ

- i. フォーティーンステップ - 4/4、2/4、または 6/8 マーチ - 毎分 112 ビート ; 氷面上を 2 パターン行うか、1 周する。(図 #10 参照)
- ii. ヨーロピアンワルツ - 3/4 ワルツ - 毎分 135 ビート ; 氷面上を 2 パターン行うか、1 周する。(図 #11 参照)

- iii. フォックストロット - 4/4 フォックストロット - 毎分 100 ビート ; 氷面上を 2 パターン行うか、1 周する。(図 # 12 参照)

セクション F 競技順

1. コンパルソリーエレメントグループとパターンダンス

- a. 全てのパターン種目の競技順を決めるくじ引きは審判によって行われる。審判がもし現われなかった場合、審判補佐、テクニカル・デリゲート、または運営委員会のメンバーがくじ引きを行う。くじ引きは、可能な限り大会開始前日の遅い時間に行う。

2. 決勝 (フリースタイルプログラム、決勝 - パターン 2 回目)

- a. 競技順はパターンプログラムの結果により決まる。
- b. パターンプログラムにより演技順が決定次第すぐに、審判はスケーターを 2 つのグループに分ける。競技者を 2 つのグループに同数に分けられない場合、2 つ目のグループは 1 つ目のグループより、さらに 1 名の競技者を含む必要がある。
- c. 順位が一番低いアスリートがいるグループから始め、2 人以上の競技者が同順位だった場合、同じグループ内でくじ引きとなる。
- d. 各グループのスケート順はくじによって決まる。それぞれのアスリート、ペア、チームはパターンプログラムの順位に従い、順番にくじ引きをする。順位が一番高い選手は、同位だった場合を含み、くじ引きを最初にすることができる。同位の選手のくじ引きは個別のくじによって、最初に決める。

セクション G - ユニファイドスポーツ®種目

1. フィギュアスケートのユニファイドスポーツ®トレーニングと競技会では、SO アスリートとユニファイドスポーツ®パートナーの選択の際は、年齢に近い者が望ましく、また同等の競技能力者を選ぶ必要がある。
2. 各ユニファイドスポーツ®チームは、SO アスリート 1 人とユニファイドスポーツ®パートナー 1 人で構成される。
3. コーチはユニファイドスポーツ®のパートナーとして参加してはいけない。

セクション H - 得点

1. 総合得点資格

- a. スケーターが予選と決勝の両方において総合得点資格を得るためには、コンパルソリーとフリースタイルの両方を演じなければならない。
 - b. アイスダンスのアスリートが予選と決勝の両方において総合得点資格を得るためには、パターンとセカンドパターンダンスの両方を演じなければならない。
 - c. 技能競技種目に出場した者は、総合得点の資格を得るために指示された各必須技能を最低 1 回は演じなければならない。スケーターには各技能を 2 回演じるチャンスが与えられる。
- 2 . スケーターは公式競技への出場資格を得るために、予選（必要な時に）と決勝の両方で演技しなければならない。
- 3 . 全てのスペシャルオリンピックスフィギュアスケート競技会において、ジャッジの採点は次のように評価される。
- a . シングルスフリースタイル
 - 1) コンパルソリー種目 - 33.3%
 - 2) フリースタイル種目 - 66.7%
 - b . ペアスケート
 - 1) コンパルソリー種目 - 33.3%
 - 2) フリースタイル種目 - 66.7%
 - c . アイスダンス
 - 1) ファーストパターンダンス - 50%
 - 2) セカンドパターンダンス - 50%
- 4 . コンパルソリー種目 - シングルス
- a . 各ジャッジはコンパルソリーのプログラムに対し 1 つの評価点を与える。
 - b . 減点はエラーの頻度と必須技能の実施漏れを基準とする。
 - c . レベル コンパルソリーエレメントに関しては、ジャッジはスケーターのキャリング（身のこなし）、スピード、サイズリンクや停止を考慮する。
 - d . レベル コンパルソリーエレメントに関しては、ジャッジはスケーターのキャリング（身のこなし）、スピード、ターンや停止の正確性を考慮する。
 - e . レベル コンパルソリーエレメントに関しては、ジャッジはスケーターのキャリング（身のこなし）、形、対称性、滑らかさ、エッジやターンのコントロールを考慮する。
- 5 . 決勝フリースタイル種目 - シングルス

- a. 各ジャッジは決勝プログラムに対し2つの評価点を与える。
 - 1) 最初の評価点は、スケーターのプログラムのテクニカルメリットに対して与えられる。
 - 2) 2つ目の評価点は、スケーターのプログラムの構成とスタイルに対して与えられる。
- b. ジャッジと計時はスケーターが演技を開始した時に始まる。
- c. 減点はエラーの頻度と必須技能の実施漏れを基準とする。
- d. 制限時間を10秒経過した時、ホイッスルが吹かれる。ジャッジはホイッスルの音を合図にジャッジを停止する。必須エレメントが含まれていれば、プログラムを完全に演じ終えなくても減点が行われない。但し、スケーターはプログラムを演じ終えている、いないに関わらず、ホイッスルが吹かれた10秒後、氷上から退場を命じられる。

6. コンパルソリー種目 - ペア

- a. 各ジャッジはペアコンパルソリーのプログラムに対し1つの評価点を与える。
- b. 減点はエラーの頻度と必須技能の実施漏れを基準とする。
- c. レベル ペアコンパルソリーエレメントに関しては、ジャッジはペアスケーターのキャリンク(身のこなし)、エッジやターンの明確度、確実性やペアとしての連携度を考慮する。
- d. レベル ペアコンパルソリーエレメントに関してジャッジは、ペアスケーターのキャリンク(身のこなし)、エッジやターンの明確度、確実性やペアとしての連携度、スピード、そして氷面の活用度を考慮する。

7. フリースタイル種目 - ペア

- a. 各ジャッジは決勝プログラムに対し2つの評価点を与える。
 - 1) 最初の評価点は、スケーターのプログラムのテクニカルメリットに対して与えられる。
 - 2) 2つ目の評価点は、スケーターのプログラムの構成とスタイルに対して与えられる。
- b. ジャッジと計時はスケーターが演技を開始した時に始まる。
- c. 減点はエラーの頻度と必須技能の実施漏れを基準とする。
- d. 定められた制限時間内に最小限のエレメントが終了されない場合は減点となる。
- e. 定められた制限時間内にペアスケーターが必須エレメントを演技し終えている場合は減点されない。
- f. 制限時間を10秒経過した時、ホイッスルが吹かれる。ジャッジはホイッスルの音を合図にジャッジを停止する。
- g. ペアスケーターはプログラムを演じ終えている、いないに関わらず、ホイッスルが

吹かれた 10 秒後、氷上から退場を命じられる。

8 . アイスダンス - ファースト パターンダンス

a. ファーストパターンダンスに対して各ジャッジは 2 回評価する。

1) 最初の評価点はテクニカルメリットであり、スケーターのステップ、パターンとタイミングに関する知識と遂行力に対して与えられる。

2) 2 つ目の評価点は演技に関してであり、スケーターの表現と、滑走の際のダンスのリズムを評価する。

9 . アイスダンス - セカンドパターンダンス

a. セカンドパターンに対して、各ジャッジは 2 回評価する。

1) 最初の評価点はテクニカルメリットであり、スケーターのステップ、パターンとタイミングに関する知識と遂行力に対して与えられる。

2) 2 つ目の評価点はパフォーマンス様式への評価であり、スケーターの表現力とダンスリズムのスタイルを評価して得点が与えられる。

10 . 最終スコアと順位 - 結果の計算

a. 国際大会とスペシャルオリンピックスの世界大会では、2002 年の国際スケート連盟の規約のルール 353 357 に記載されている ISU6.0 - OBO システムを用いなければならない。

b. 全国大会や地区大会および技能競技会あるいは技能競技会のみの場合は、結果の決定に以下のシステムを使用してもよい。

各ディビジョンでのアスリートの最終得点と順位は、初戦から最終戦までの得点を加算して決定される。最終順位は各ディビジョンの最高得点から最低得点の順に決定される。最高総合得点を得た者がそのディビジョンにおける優勝者となる。

セクション I - 技能 (スキル) 競技の運営

1 . 技能 (スキル) 競技

(世界大会の種目ではなく、ローカルの競技会とプログラムレベル競技会用)

a . 11 の個人技能競技において、スケーターに各技能を 2 回演技するチャンスが与えられ、その演技が決勝戦となる。この競技では予選は実施されない。

b . ジャッジはスケーターの 2 回の技能演技の各々に対し得点を与える。

c . ジャッジは、最低点 0.1 から最高点 6.0 までの評価基準を用いて、技能演技を採点する。

d . スケーターの最終得点と順位を決定するため、2 回の演技のうち高いほうの得点を

使用し、各技能に対して与えられた高い得点が合計される。

- e. 技能競技種目 - スケーターは技能競技 2 に出場するにはバッジ 2、技能競技 3 に出場するためにはバッジ 3 が完全に出来なくてはならない（以降同様）。（バッジプログラムはスペシャルオリンピックスフィギュアスケートスキルブック、または SO 国際本部のホームページ <http://www.specialolympics.org> 上にある新しいスペシャルオリンピックスフィギュアスケートコーチングガイドに記載されている）

1) 技能競技 1

- a) アシスタントなしで前へ 10 歩歩く
- b) その場で 3 回連続スウィズル
- c) 両足を揃えて身長以上の距離をフォア滑走する

2) 技能競技 2

- a) バックウィグルかバック歩行
- b) フォアのスウィズル 5 回で 3m 以上の距離を滑走する
- c) ひざを曲げて身長以上の距離をフォア滑走する

3) 技能競技 3

- a) 両足をそろえて身長以上の距離をバック滑走する
- b) イの字ストップ（左または右）
- c) 片足で身長以上の距離をフォア滑走する（左または右）

4) 技能競技 4

- a) バックのスウィズル 5 回で 3m 以上の距離を滑走する
- b) 両足フォア滑走で左右にカーブしながらリンクを横切る
- c) その場でフォアからバックへの両足ターン

5) 技能競技 5

- a) フォア滑走から両足ターンをしてバック滑走する
- b) 片足で身長以上の距離をバック滑走する（左と右）
- c) フォアのピボットターン

6) 技能競技 6

- a) バックストロークでリンクを横切る
- b) バック滑走から両足ターンをしてフォア滑走する
- c) T字ストップ（左または右）

7) 技能競技 7

- a) 5回連続フォアクロス（左回りと右回り）
- b) アウトエッジでフォア滑走する（左と右）
- c) 両足スピン

8) 技能競技 8

- a) フォアアウトスリーターン（左と右）
- b) インエッジでフォア滑走する（左と右）
- c) バニーホップ

9) 技能競技 9

- a) フォアインスリーターン（左と右）
- b) 5回連続バッククロス（左回りと右回り）
- c) フォアのスパイラル（身長の3倍くらいの距離）

10) 技能競技 10

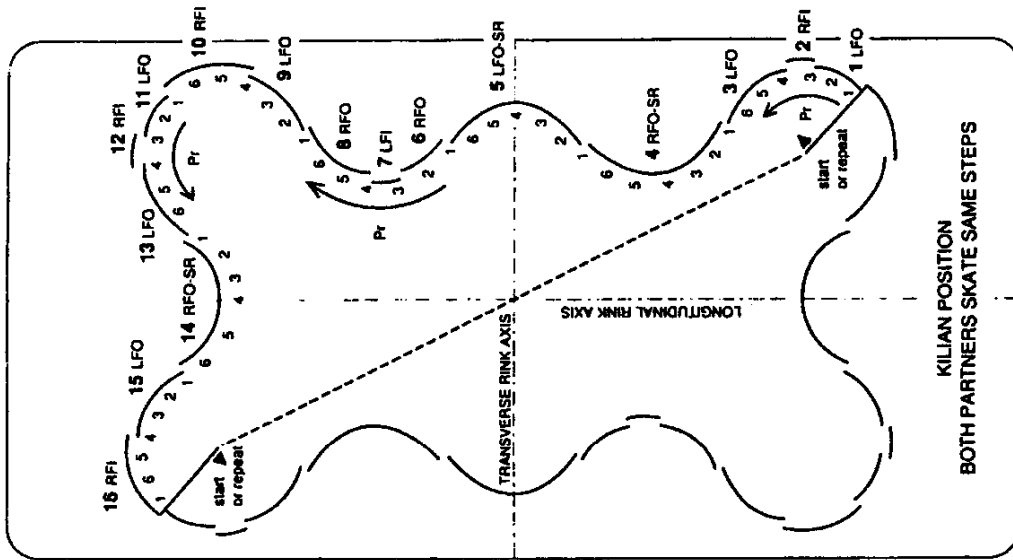
- a) フォアアウトセミサークル（最低各足2回）
- b) フォアインセミサークル（最低各足2回）
- c) フォアインサイドモホーク（左と右）
- d) アウトエッジでバック滑走する（左と右）

11) 技能競技 11

- a) スリージャンプ
- b) 片足スピン（3回転以上）
- c) フォアクロス インサイドモホーク バッククロス（左回りと右回り）
- d) 技能競技 8～11 から3つの動作を組み合わせる

図#1

ダッチワルツ



図#2

キャナスタンゴ

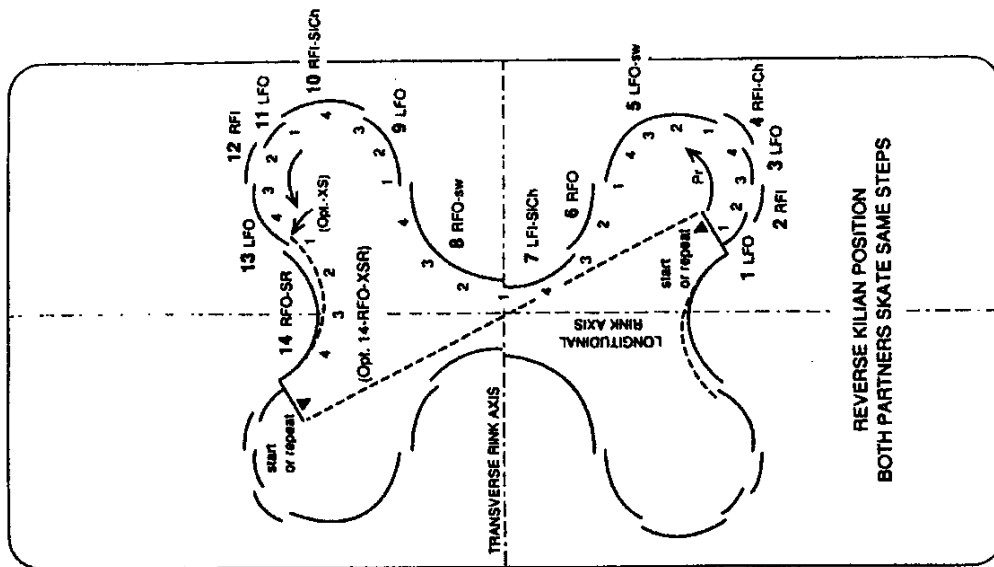


図 #3

リズムブルース

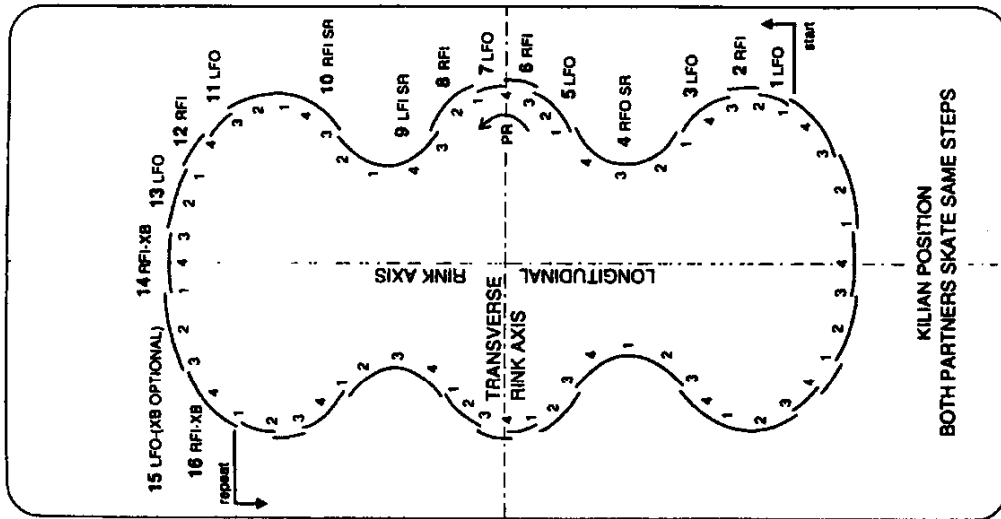


図 #4

スイングダンス

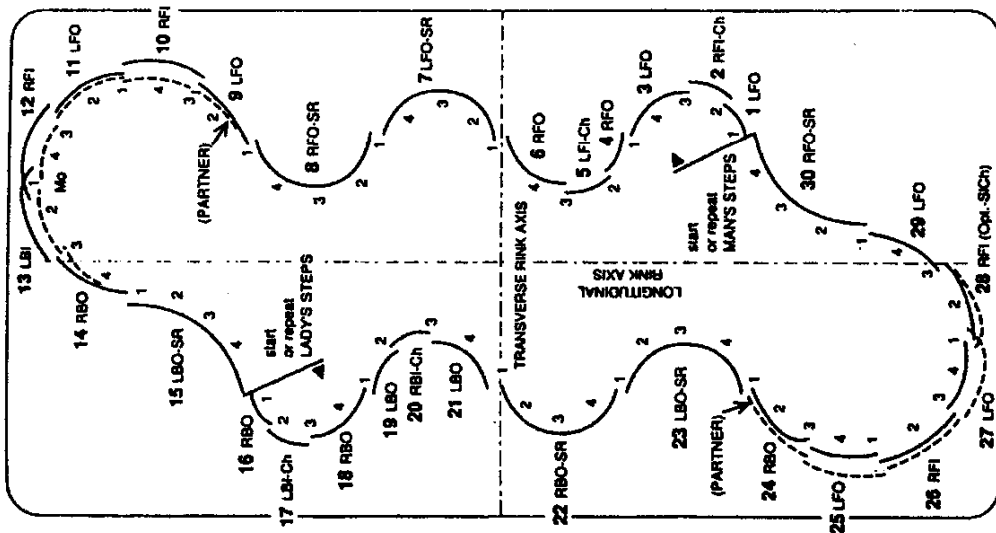


図 #7

ヒッコリー ホーダウン

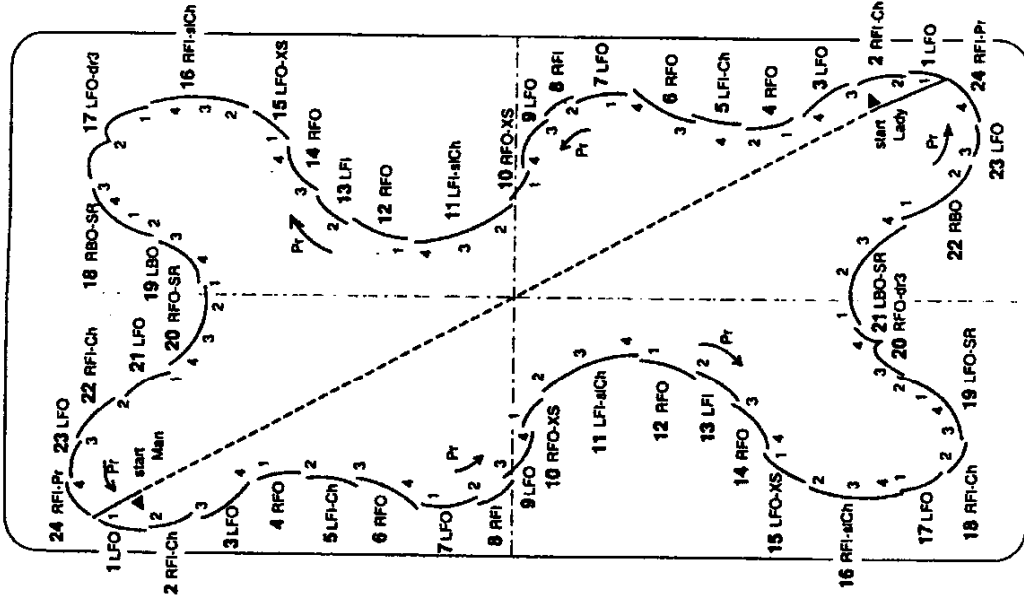


図 #8

テン ホックス

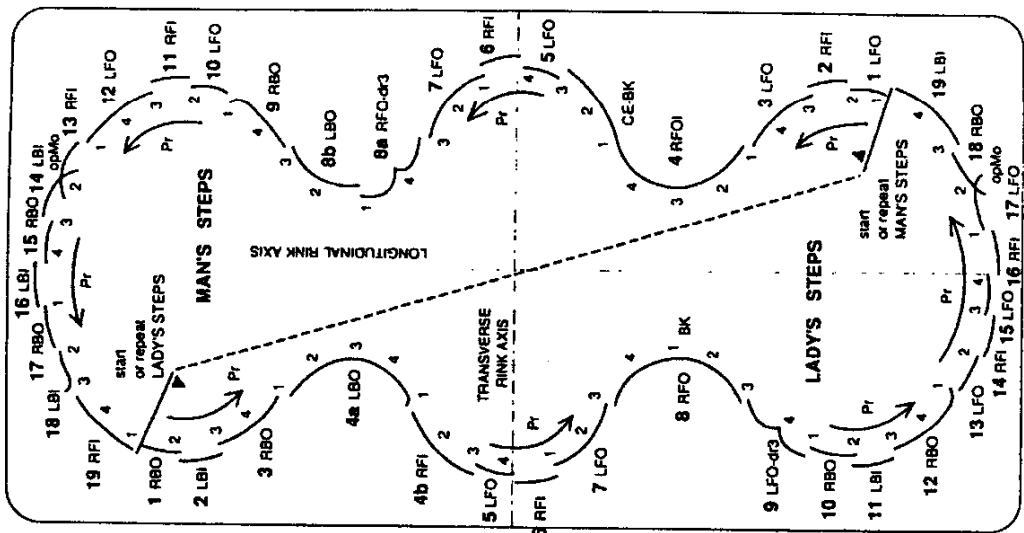


図 #9

ウィロー ワルツ

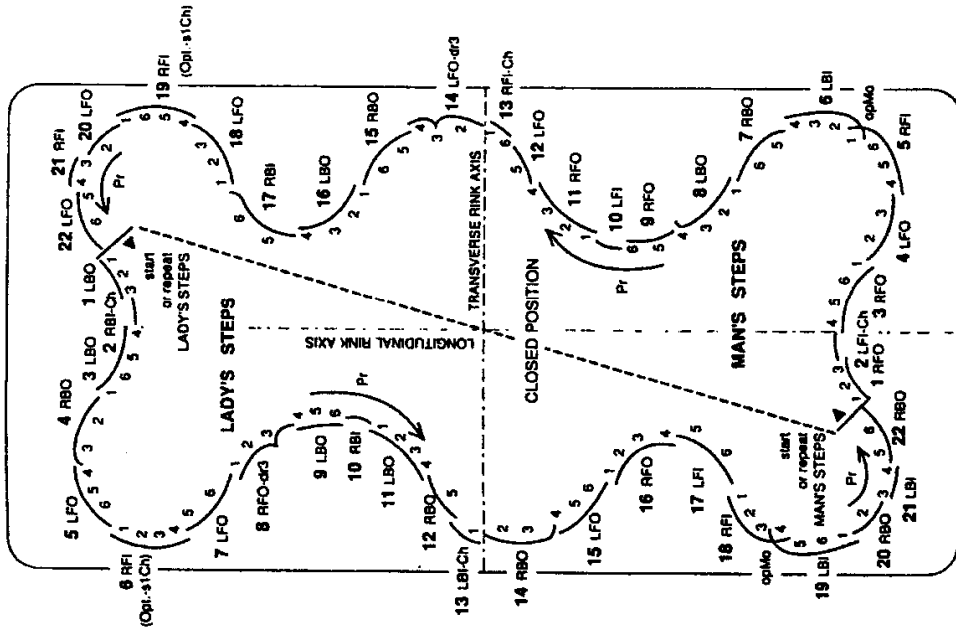


図 #10

フォーティーン ステップ

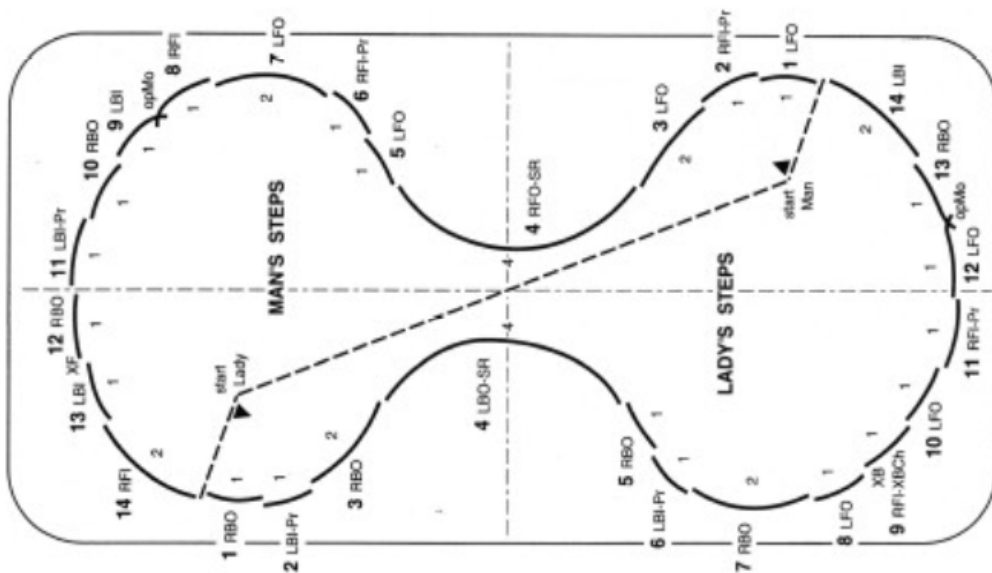


図 #11

ヨーロッパアンワルツ

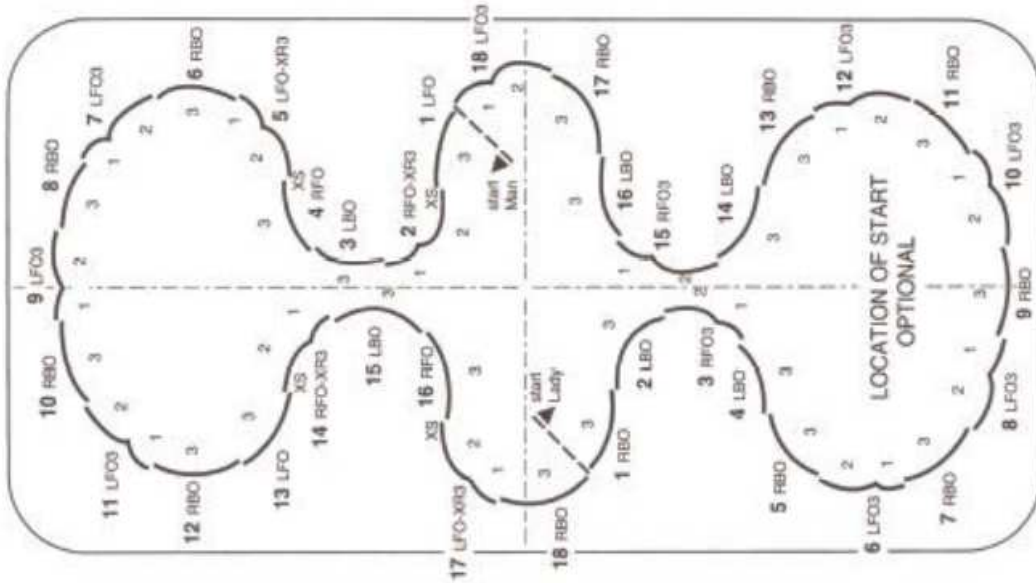
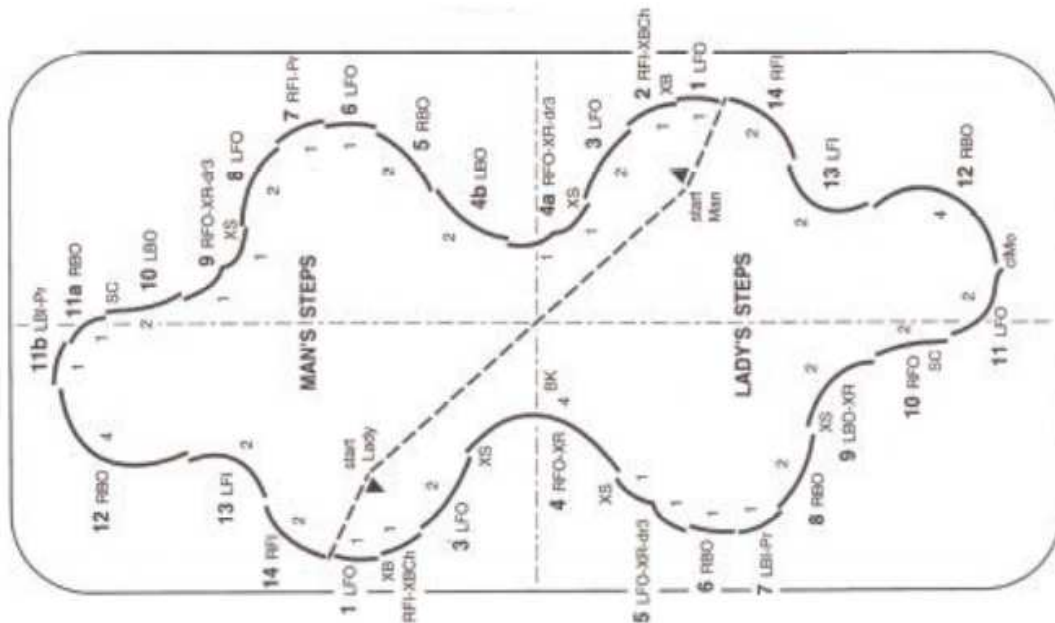


図 #12

フォックストロット



<スペシャルオリンピックスのスポーツプログラムを実施するに当たっての留意点>

スペシャルオリンピックスの正式なスポーツプログラムとして活動する場合には、事前に最寄りの地区組織事務局、又はスペシャルオリンピックス日本事務局にご連絡ください。